アメリカ合衆国の大学院におけるソーシャルワーク教育

Master of social work education in the United States

大学院 GP リサーチ・アシスタント　平　澤　恵　美
Emi HIRASAWA

はじめに

アメリカ合衆国（以下アメリカ）のソーシャルワーク教育の歴史は 19 世紀にさかのぼり，社会学系・経済学系大学で社会福祉関連課題や社会福祉関連改革が授業として取り入れられ，実践現場での社会福祉研修制度が個々の慈善組織協会にて実施されたことから始まる．そして，1898 年には，プライベート組織やチャリティ組織などに勤務するソーシャルワーカーを対象とした社会福祉の夏期講習行われ，それがきっかけとなってニューヨーク慈善事業夏季学校が設立された．これは，現在のコロンビア大学社会福祉学部の前身としてソーシャルワーカーの養成に携わっていたと言われている．こうして，地域組織の活動から始まったアメリカのソーシャルワーク教育は，実践者と教育者の共同により，専門職化と社会的認知の確立基盤を築き，数十年の歳月を経て，現在の社教育体制を形成したのである．

アメリカのソーシャルワーク教育の基本は，学部卒の学生を対象として発展していった経過があるため，その多くは大学院レベルの教育，すなわち高度社会福祉専門職の養成を標準として設定しており（平山 2004），修士課程からのソーシャルワーク教育を行っている学校も少なくない．近年では，社会変化に伴う社会福祉専門職の需要増加により，初等社会福祉専門職として学部から開設している教育機関も増加し，ソーシャルワーク教育協議会（Council on Social Work Education：CSWE）の 2006 年調査によると，アメリカ全土における学部生の総数は 27,408 名，修士学生の総数は 24,910 名となっている．したがって，アメリカでは，ソーシャルワークの分野において修士学位を志す学生の数が多く，実践現場でも大学院における高度社会福祉専門職教育の必要性が重視されつづけており，大学院教育は高等レベルの知識・理論・技術を備えた専門職養成機関として認知されているのである．

日本における伝統的な大学院教育では，研究者養成機関として研究能力を高めることが目標とされ，その教育内容は修士論文指導が中心となっている．しかしながら，昨今の福祉系大学院の傾向としてみられるのが，研究者養成としての大学院教育だけでなく，アメリカの大学院教育でみられるような，社会福祉専門職としての実践における高度な知識と能力を持った人材の育成である．その一例として，日本社会事業大学大学院では，実務型専門教育を提供する社会福祉専門職大学院を昼間 1 年間のプログラムとして設置している．また，日本福祉大学大学院でも，研究を中心とした研究力養成コース以外に，実践研究を中心とした高度専門職業人養成コースを 2009 年 4 月より設置する．

本研究は，こうした高度社会福祉専門職育成の長い歴史をもつアメリカの中でも，ソーシャルワーク教育のリーダーと言われる大学院三校を訪問調査し，そのプログラム内容を把握することにより，高度専門職養成機関としての大学院教育プログラムへの提言へと繋げる役割を果たす．その概略として，大学院プログラムの構成・科目・専攻・実習を提示し，それぞれの枠組みの中における各校の特徴も紹介する．また，今回訪問した三校は，University of California（カリフォルニア大学），University of Washington（ワシントン大学），そして City

University of New York（ハンターカレッジ）であり，それぞれのプログラム内容について，大学院学部長を含める 10 名のファカルティ及び 5 名の大学院関係者よりヒアリング調査を行っている．

アメリカのソーシャルワーク実践

アメリカにおけるソーシャルワーク実践の現場はわが国の現状と大きく異なる．アメリカ労働局調査による 2006 年全米ソーシャルワーカー業務の総数は 595,000 件であり，その業務の詳細は，以下のように記されている．①児童・家族・学校におけるソーシャルワーカー業務 47%，②医療・公衆衛生に関するソーシャルワーカー業務 21%，③精神保健・依存症のソーシャルワーカー業務 21%，④その他のソーシャルワーカー業務 11%である（U.S. Department of Labor 2006）．この結果から，アメリカの社会福祉実践は児童・家族・学校関係に比重が置かれているという特徴が見られる．

また，これらの現場では，社会福祉学士（Bachelor of Arts in Social Welfare：BASW）がソーシャルワーカーとしての最低条件であり，多くの現場で社会福祉修士（Master of Social Work：MSW）が要求されている（U.S. Department of Labor）．アメリカでは学士取得後，ソーシャルワーカーとして現場実績を積みながらキャリアアップに繋げるのではなく，大学院へ戻り修士を取得することで，業務の幅を広げながらスーパーバイザーとして社会的地位を確立する流れになっている．

また，日本の社会福祉士や精神保健福祉士といった国家試験制度はなく，ソーシャルワーク教育協議会（CSWE）によって認可された教育課程を卒業していれば，学士課程（BASW）修士課程（MSW）共にソーシャルワーカーとして社会的に認知されている．アメリカ全土で最も知られている認定制度は，ソーシャルワーク委員協会（Association of Social Work Boards）が実施している，ソーシャルサービスワーカー（Social Service Worker：SSW），認定ソーシャルワーカー（Certified Social Worker：CSW），認定クリニカルソーシャルワーカー（Certified Clinical Social Worker）であり，実務経験やスーパーバイズ経験などの規定に加え，認定試験を合格することで，より専門的な実践に携わることができる．組織によっては認定制度を必須としている場合もあり，求められている人材，組織の条件によって対応される．こうした認定を受けた後も，2 年おきに 40 時間以上の継続教育を受けたり，カンファレンスやワークショップに参加したり，高度社会福祉専門職のレベルを維持するための姿勢が求められているのである．

MSW 養成プログラムの在籍者

社会福祉専門職として，高度な専門性を重視している実践現場を支えているのが MSW 養成プログラムである．MSW デイプログラムの在籍者の特徴として，カリフォルニア大学・ワシントン大学・ハンターカレッジの三校で共通点がみられ，平均年齢が 26 歳〜27 歳，入学前の社会福祉現場における経験年数が 1〜2 年，大学での主な専攻分野が社会福祉学と心理学といった結果がみられる．また，最低 1 年間の社会福祉現場経験を求める大学側の姿勢は，福祉現場における実践体験を重視しているアメリカのソーシャル教育の特徴であるとも考えられ，社会福祉専門職を自らのプロフェッションとする強い志を持った志願者を大学院側も求めている．また，入学審査で求められる入学動機「パーソナルステートメント」では，社会福祉専門職としてのコミットメント，ソーシャルワーカーとしての資質と適正が判断され（木村 2004），こうした入学動機の多くは個人の経験と深く繋がっているケースが多いと言われている．ワシントン大学の MSW プログラムを例に挙げると，1 学年の在籍者 100 名に対し，入学希望者が約 700 人程度であり，7 倍の難関をくぐり抜ける重要要件として，大学側は実践経験や個人の経歴から生じたソーシャルワーカーとしての姿勢を提示している．

通常のデイプログラムとパートタイムプログラムを比較すると，在籍者の特徴に違いがみえる．パートタイム MSW プログラムの在籍者は，プログラムが一定以上の現場経験を持った生徒を対象として開設されているため，年齢層も比較的高く，30 代〜40 代の生徒が中心となっている．また，経験年数も長期で 10 年〜20 年の生徒が在籍しているため，授業内容や実習内容も経験を考慮した構成が特徴となっている．こうしたプログラム在籍者の多

くは，仕事を継続しながらのMSW取得を希望するため，2年以上の在学年数になる場合も多く，学校側は生徒のニーズに対応したプログラムが展開できるよう，高度社会福祉専門職教育に力を注いでいる．

大学院プログラムの構成

MSWのデイプログラム

アメリカの大学院におけるソーシャルワーク教育はCSWEによって認定されているため，その内容も共通したものになっている．通常，MSWのデイプログラムは2年間のフルタイム構成であり，一週間の半分を学校の講義・演習，残りの半分を実習先で過ごすという形式になっている．1年目よりも2年目に実習の比重を多く置いている学校が一般的とされているが，ハンター校のように1年目から実習に力を入れている学校もある．

MSWデイプログラムの特徴として，1年目は社会福祉学の基礎となる授業を中心に，ジェネリックな内容を含んだ講義や演習が行われる．実習内容も基礎的な知識や技術を中心として構成されており，多くの学校で1年目と2年目の実習先を異なる専門分野やフィールドで行うように設定している．2年目は1年目で学んだ基礎をベースとして自分の専門分野を明確にし，その専門に沿った授業と実習を選択するようになっている．また，CSWEの規定では修士論文が卒業要件として規定されていないため，多くの学校で実践者養成を主とした実習中心のプログラム構成がなされており，研究要素が少ない特徴もみられる．

本研究の調査対象である三校では，図1でみられるように，社会福祉教育の基礎プログラムとしての講義と実習を基本として，授業数，実習時間，論文の規定を行っている．

Advanced Standing Program（短期養成プログラム）

通常の2年間で行うカリキュラムをクオーター制の4学期（セメスター制の3学期）に短縮したのが短期養成プログラムの特徴である．このプログラムへの入学資格要件として，BASWが必要とされている．CSWE認定のBASWカリキュラムでは，卒業後の現場実践に対応するための社会福祉学の基礎理論と基礎実習が必須となっており，学部の最終学年では週2回480時間程度の実習がプログラムに含まれている．したがって，1年間の短期養成プログラムではあるものの，BASWプログラムでの約480時間の実習及びMSWプログラムの約700時間の実習が必須となり，MSWプログラムと同レベルの知識と技術が修得できるのである．

ワシントン大学のケースでは，通常の秋学期からの入学ではなく，その3ヶ月前の夏学期からの4学期間（したがって卒業までの期間は15ヶ月となる）でプログラムを修了することになり，最初の1学期間に週5日間の集中的な講義・演習を行い，残りの3学期間で週2回〜3回の講義・演習，及び週3回以上のフィールドワーク実習を行う構成となっている．

One Year Residency Program（1年間研修プログラム）

1年間研修プログラムは，MSWデイプログラムや短期養成プログラムのようにフルタイム学生としてではなく，現状の仕事を活用しながら修士学位を修得するプログラム構成となっている．まず，1年間研修プログラムへ入学するためには，2つの資格要件を満たすことが求められる．その概要は，①社会福祉組織における2年以上の実務経験，②学校側が提示する条件下での就労先におけるインターンシップの提供である．このプログラムはフルタイ

図1　MSWのデイプログラム

学　校	2年間の授業数	実習時間	卒業論文
カリフォルニア大学	19クラス	1年目：400時間（週2回） 2年目：720時間（週3回）	なし 希望者のみ
ワシントン大学	19クラス	1年目：360時間（週2回） 2年目：720時間（週3回）	なし 希望者のみ
ハンターカレッジ	20クラス	1年目：600時間（週3回） 2年目：600時間（週3回）	なし 希望者のみ

ムの就労先を持ちながら，パートタイムとして講義・演習を取ることができ，現場実習は，1年間を各自の職場にて行う仕組みとなっている．通常の1年間研修プログラムは夏学期を含めた2年間で修了することが可能だが，最長で5年間の在籍が認められている．

MSW実践者の養成に力を入れているハンター校では，1年間研修プログラムの入学者が多く，1学年あたり175名の生徒が在籍している．また，プログラム修了までの実習時間は900時間であり，現場実践者を対象としていることもあり，通常の1200時間と比較して少ない設定となっている．実習先として各自の就労先が認められているものの，実習の条件として，その内容に現在の職務以外の全く異なる要素を組み入れることが要求されるという特徴がある．

Extended MSW Program（MSW延長プログラム）

MSWデイプログラムが2年間のフルタイムであるのに対し，MSW延長プログラムは3年間から4年間のパートタイム構成となっている．このプログラムは遠距離や近隣の就労学生を対象としているため，講義・演習を週末・夜間・学内・学外（インターネット）で提供しているという特徴がある．学外で受講できない限定されたクラスについては，1期分のクラスを数回に分割して受講できるよう配慮されている．また，実習は1年目から開始するのではなく，2年目・3年目から開始され，職場とは別の実習先を選択することになっているという点で，1年間研修プログラムとは異なる．

ワシントン大学のMSW延長プログラムは，夏学期を含めた3年間で修了することになっており，単位ごとに学費を納めることになっているため，3年間で75単位を修めれば卒業できるという構成になっている．実習単位は合計で720時間とされており，デイプログラムの2/3時間の設定となっており，クオーター制の4期目から開始し，7学期間をかけて修了するケースが一般的である．プログラム登録をしている生徒の多くは，社会福祉関係の仕事をしている遠距離学生であるため，学校側も生徒のニーズに対応したプログラム構成や授業内容の検討をしながら，ケースバイケースの対応をしている．

Dual Degree Program（二重学位取得プログラム）

二重学位取得プログラムは，3年間のフルタイムで二種類の修士学位を取得するプログラム構成となっている．この二種類の学位は互いが似たような問題意識を共有するだけでなく，同じような視点からの現場介入など，社会福祉修士学位の基礎となる科目の共通部分も多く見られる．したがって，二種類の学位に必要な科目を全て受講する必要性がなく，4年修了の代わりに3年での修了が可能となっている．また，実習も共通な部分を活かした現場を利用するなど，短期間で二つの専門性を追求するための工夫が凝らされている．二重学位取得プログラムに見られる組み合わせの多くは，Social Work（社会福祉学）とPublic Health（公衆衛生学），Social Work（社会福祉学）とEducation（教育学），Social Work（社会福祉学）とGerontology（老年学）などがある．

カリフォルニア大学とワシントン大学では，社会福祉学と公衆衛生学の二重学位取得プログラムを提供しており，両校のプログラムにおいて社会福祉学の基礎として1年目を修了し，2年目から公衆衛生学を同時進行させるように勧めている．ワシントン大学の例を挙げると，MSWデイプログラムで必要な75単位と，公衆衛生学で必要な54単位，そして公衆衛生学で必須とされている修士論文の9単位を含めた138単位から，共通科目などを差し引いた155単位で両方の学位を修得できるように二重学位取得プログラムが構成されている．

図2　大学院プログラムの構成

	修学期間	実習時間	経験年数
MSWデイプログラム	通常2年間	約1100～1200時間	約1～2年間
MSW短期養成プログラム	通常15ヶ月	学部400時間　　修士700時間	不明
MSW1年間研修プログラム	通常2年	自分の就労先にて900時間	2年以上
MSW延長プログラム	（通信教育）3年～4年	自分の就労先以外で720時間以上	2年以上
MSW二重学位プログラム	通常3年間	約1100～1200時間	不明

社会福祉学と教育学の二重学位取得プログラムを提供しているハンターカレッジでは，ハンターカレッジ外の大学と提携しながら，0歳から3歳までの特殊なケアが必要とされる児童とその家族に対する実践者の養成に力を入れている．最初の2年間は両方の学校における個々の科目を履修し，3年目で二校が提携している科目を履修することにより，社会福祉学と教育学を結ぶ視点から児童福祉学を学習できるように構成されている．また，両方の教育機関で実習を必須としているため，両校の要件に合った実習先を選択できるようにもなっている．

MSW プログラムの科目

社会福祉従事者だけでなく，社会福祉に関連した多様な経歴や経験を持った学生に対する総合的な社会福祉教育の提供を行っているのがCSWE認定のMSWプログラムの特徴であり，カリキュラムの特色の一つとして挙げられるのが科目編成である．高度社会福祉実践の専門家養成プログラムとして，MSW修了後には社会福祉専門職としての知識と，多面的な視野からの援助技術を活かせるような人材育成が目標とされており，1年目の基礎科目と2年目の専門科目の組み合わせが一般的である．三校における共通の社会福祉学の基礎科目は，① Social Policy（社会政策）② Study of Human Behavior and the Social Environment（人間行動学と社会環境学）③ Social Work Practice（社会福祉学実践）④ Social Work Research（社会福祉学調査）⑤ Social Work Practicum（社会福祉学実習）

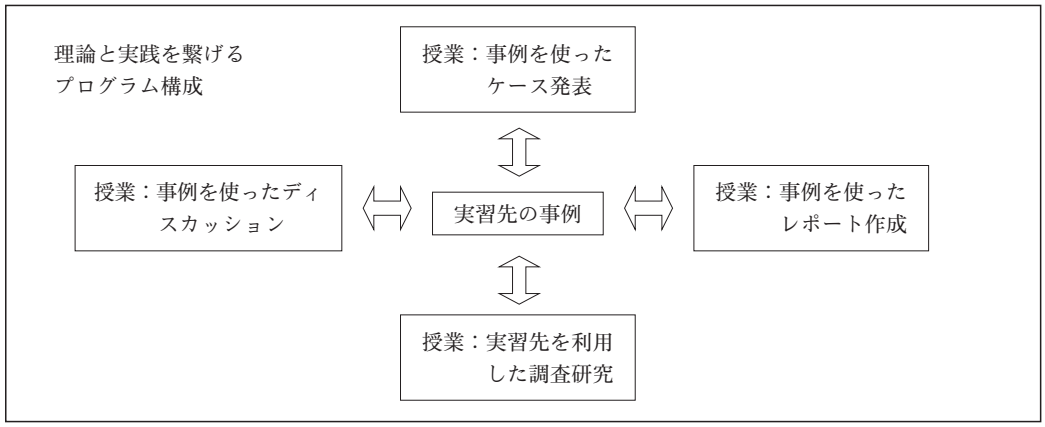
また，2年目の専門科目については，上記で挙げた基礎科目の上級科目としての，社会福祉調査セミナーや社会福祉実践セミナーなどが該当する以外に，2年目の専攻で各自が選択する専門に関連した授業を選択できるようになっている．また，専攻科目の授業は実習との相互作用を重視しているため，授業で出される課題を実習先で行うことにより，授業で学ぶ理論を実習先で実践として展開することが求められる．また，実習先の事例を実際の授業のなかで取り入れ，①事例を使ったケース実践の発表，②事例を利用したレポート作成，③事例を使ったクラス全体でのディスカッション，④社会福祉調査で対象とする調査研究など，実習先で学んだ事を学校で応用する，実践と理論の繋がりを重視するプログラム構成も見られる（図3）．

MSWプログラム科目における研究の位置づけは，必修に含まれている社会福祉学調査が中心となっているが，研究を希望している学生に対しては個人的な対応が配慮されている．選択科目の単位を個人研究指導として専任教員に求める事ができ，研究計画・研究の枠組み・調査のデザイン・調査の分析・論文の作成の個人指導を受ける事ができる．また，カリフォルニア大学では，修士論文という形での研究報告は必須とされていないものの，プログラム専攻のセミナーとして行うプロジェクトは実習先との関係性の中から作成することが推奨され，その研究結果は2年生の最終学期にポスターセッションとして発表することになっている．

MSW プログラム専攻

MSWプログラムでは，1年目の社会福祉学基礎知識の修得と2年目の社会福祉学専門知識の修得を目標に掲げており，2年目の専門分野においては，プログラム専攻に沿った実習及び講義・演習を各自が選択するカリキュラ

図3　講義と実習の関係図



ム構成になっている．したがって，1年目の時点で，MSW プログラムの中での自分の専攻を選択するしくみとなっている．2年目における専門的知識・技能修得は，MSW を社会福祉実践の専門家として位置づける重要なプログラム要素となっており，卒後は多くの学生がその専門分野内での就労へと繋げているのである．また，MSW プログラム専攻の内容は各校だけでなく，選択するプログラムの種類によっても異なっている．

カリフォルニア大学は，以下の5種類のプログラム専攻で構成されている．

① 児童・家族へのソーシャルワーク
② 地域精神保健のソーシャルワーク
③ 保健衛生のソーシャルワーク
④ 高齢者へのソーシャルワーク
⑤ ソーシャルワーク・マネージメント

ワシントン大学は，4種類のプログラム専攻によって構成されている．

① 対人援助・直接援助のソーシャルワーク
② コミュニティ・ソーシャルワーク
③ ソーシャルワーク・マネージメント
④ 政策のソーシャルワーク

ハンターカレッジのプログラム専攻は6種類で構成されている．

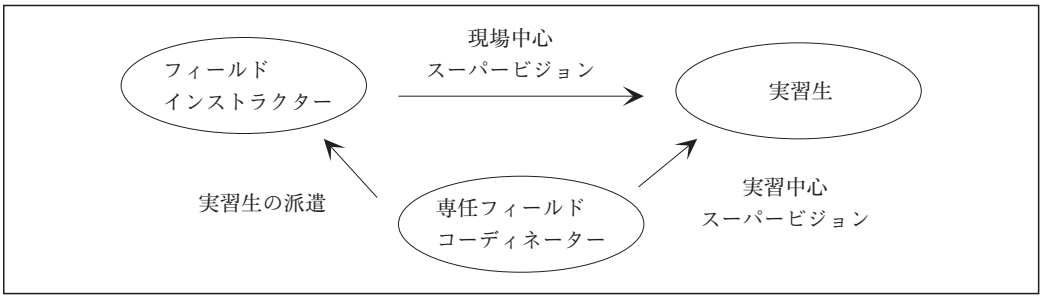
① 成人・高齢・家族のソーシャルワーク
② 児童・青年・家族のソーシャルワーク
③ 保健衛生・精神保健のソーシャルワーク
④ 職場・就労・リハビリテーションのソーシャルワーク
⑤ コミュニティ・予防に関するソーシャルワーク
⑥ 新しい課題に関するソーシャルワーク

以上の通り，プログラム専攻による各学校の違いは明確であり，各校の特色が現れている．カリフォルニア大学ではダイレクトなソーシャルワーク教育がその多くを占め，マイクロレベルでの専門家の養成が主体となっている．ワシントン大学ではマイクロレベルの他に，コミュニティやマネージメントなどのメゾレベルでの専攻とポリシーなどマクロレベルにも力を入れており，総合的なレベルにおける福祉実践者の養成課程が提供されている．また，ハンターカレッジでは，レベル別の専攻ではなく，分野別の専攻を選択できる要素が強く，個人の関心をもとにした専攻分野の選択が可能になっている．こうした情報はインターネットや学校説明会でも広く提供されており，MSW プログラムを専攻する学生はアメリカ全土から，個人の目標に合ったプログラムを選択している．

MSW プログラムのフィールドワーク実習

MSW プログラムにおける実習は，講義における理論と実習における実践を結びつける重要な役割を果たしており，この2つの結びつきを通じて高度な専門性を備えた社会福祉の専門家としての価値観と倫理観を養成しているといえる．また，広義のソーシャルワーク教育と，各分野における専門性を追求したソーシャルワーク教育の両面

図4　フィールドワークの関係図



から実習も構成されており，一般的なMSWプログラムの実習では，1年目と2年目を異なる専門分野，そして異なる実践現場で行うケースが多くみられ，実習における目標もジェネラリストとしての視点，そしてスペシャリストとしての視点の両方を重視している．

実習時間は，1年目よりも2年目に比重を置いた学校が一般的であり，年間を通じて一定程度の時間を過ごす実習先の選択や調整は，各校のMSWプログラムに配置されているフィールドコーディネーターが担っている．1期目の段階で1年目の実習先を決定しなくてはならないため，入学後すぐに実習オリエンテーションが行われ，フィールドコーディネーターからの実習に関する説明・実習経験者や2年生からの経験談・実習先のインストラクター（スーパーバイザー）からの現場紹介など，様々な情報が多面的に提供される．こうした情報をもとに，学生は学校に登録されている200〜300件の実習先リスト（実習先の数は各学校によって異なる）から，希望する実習先を選択し，フィールドコーディネーターに希望を提出する．一人ひとりの学生に対し，専任フィールドコーディネーターが適合され，専任フィールドコーディネーターは担当学生の希望・経験・現場状況等を配慮しながら，学びの機会を充分に発揮できると考えられる実習先を提案する．1年目はジェネラリストとして，広い視野で社会福祉を捉える力を備えるという観点から，今まで経験したことのない新しい分野での経験を重視するケースが多くみられるが，2年目は学生の意思を尊重した実習先の選択を提案する傾向が強くみられる．また，実習先での困難や，希望に沿わないケースが生じた場合には，専任フィールドコーディネーターが学生からの相談や実習先との交渉を担当し，必要に応じて実習先の変更を行い，実習支援を提供するように構成されている．

実習先として学校側に登録される条件の一つとして，MSWプログラムを卒業したフィールドインストラクターの存在がある．学校側はフィールドインストラクターに実習の役割や学生の指導方法など，実習指導のための講義を行っている．その中で求められている実習指導条件の一つが週1回1時間のスーパーバイズの時間であり，全ての実習生にフィールドインストラクターからのスーパーバイズの時間が確保されている．学生はこの時間を通じて，自分が抱えている困難ケースや個人的な課題など，スーパーバイザーとの会話を通じて実習を自分の成長の場として有効的に活用している．このようなMSWプログラムにおける実習先と学校との関係は，長期に渡る実践現場と教育現場の信頼関係や相互支援から確立されている場合が多く，実習先が学生に指導を提供する代わりに，学生がある一定量のケースや任務を担当するという関係となっている（図4）．

おわりに

アメリカのMSWプログラムは高度社会福祉実践を現場で提供する知識・能力・技術を備えた専門家の養成課程であると言える．実践者養成プログラムとして社会的にも認知され，高度教育機関として現場で求められている要件として，MSWプログラムの構成・科目・専攻・実習をまとまると，以下の4点となる．

1）MSW取得と実践現場リーダーへの道

現場の経験年数がどれだけ長くても，MSWを取得していなければ携わることのできない職務があり，MSWなしでは社会福祉の専門家として現場で認知されない現状がある．このように，学部卒と修士卒では職務内容も異なることから，報酬にも違いがでてくる．したがって，BASWやその他の社会福祉現場に携わる学部卒の経験者がMSWを取得しやすいプログラム構成を学校側も提示しており，MSWの取得が現職でのステップアップと直接的な繋がりを示している．

2）理論と実践とが直結・循環したプログラム

MSWプログラムでは，知識として学ぶ理論をすぐに応用させる現場が提供されているため，知識が知識で留まることがない．また，2年間に2つの異なる現場で学ぶ実践技術は，卒業後すぐに実践者として対応できるだけのトレーニングとなるため，卒業後の実習期間も短く，就労先でも即戦力としてすぐに活動することができる．

3）ジェネラリストとスペシャリストの連結教育プログラム

1年目のジェネラリストとしてのソーシャルワーク教育と2年目の専門専攻を含めたスペシャリストとしてのソーシャルワーク教育により，一般的な福祉の知識と専門的な高度の知識を持つ専門家としてのバランスを保つことが求められている．1年間の専門専攻は就労先を限定していく上でも大きな役割を果たし，各自が1年を通

じて身につけた専門分野における知識や技術を中心として就職先を選択することにより，スムーズな就職活動を行うことが可能となっている．

4）実践と教育との協働によるプログラム

いい実践者を養成することは，自分のクライアントに対するアドボカシーでもあり，専門家としての重要な役割の一つであると考えられており，現場の視点として，現場実践者が実習生の教育に携わることが職務の妨げになるとは考えられていない．また，多くの現場は多種・多様性を尊重し，積極的に実習生やボランティアを受け入れる姿勢があるため，学生が年間を通じて現場に居ることがごくあたりまえの環境設定になっているケースが多い．

こうした実践的な人材養成は，アメリカのソーシャルワーク教育の歴史と，経済・生活環境等に影響される社会変化の対応から培われたものであり，その内容だけでなく，社会的な位置づけも一般的な日本のソーシャルワーク教育とは大きく異なることがわかる．MSW プログラムの構成・科目・専攻・実習を日本の大学院教育に取り入れることは困難だと考えられるものの，MSW プログラムにおける幾つかの特徴は，日本のソーシャルワーク教育の要素として考慮することが可能である．

日本における大学院教育が研究者養成を中心に発展してきたという歴史から，実践現場における大学院教育の位置づけは高度な専門技能を高めるというより，現場とはかけ離れた別枠の知識や能力を高めると捉えられがちである．しかしながら，日本福祉大学を例に挙げても，在学生の多くは現場実践者であり，現場を持ちながら学位取得に向けて学んでいる．具体的な例としては，教育現場と高度な専門職としての知識を求める実践現場の連携関係を築くことにより，アメリカのソーシャルワーク教育でみられるような理論と実践の枠組みを取り入れていくことが可能であると考えられる．

最後に，学部レベル，修士レベルに関わらず，本研究で取り上げたアメリカにおけるソーシャルワーク教育の概要が，高度な専門性を備えた福祉現場の人材養成への参考資料として，そして，ソーシャルワーク教育への参考資料となることを期待したい．

（ひらさわ　えみ：社会福祉学研究科，社会福祉学専攻博士後期課程 2005 年度入学）

文献

Council on Social Work Education (2006), *2006 Annual Survey of Social Work Programs.*
http://www.cswe.org
木村真理子（2004）「精神保健領域で働くソーシャルワーカーの大学院教育」『ソーシャルワーク研究』30（2），26-34．
Hunter College School of Social Work of the City University of New York:
http://www.hunter.cuny.edu/socwork/
平山　尚（2004）「アメリカにおける社会福祉教育―歴史的発展と現状（特集ソーシャルワーカーと大学院教育」『ソーシャルワーク研究』30（2），84-92．
U.S. Department of Labor:
http://www.bls.gov/oco/pdf/ocos060.pdf
University of California (2007), *MSW Student Handbook,* School of Social Welfare.
University of California School of Social Work:
http://www.socialwelfare.berkekey.edu
University of Washington (2007), *Practicum Manual for the Master of Social Work Program.* School of Social Work.
University of Washington School of Social Work:
http://depts.washington.edu/sswweb/